

平成28年度 第1回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日 時：平成28年5月13日（金）15時00分～17時00分

場 所：尾道市立大学E棟1階120会議室

出席者：尾道市公立大学法人評価委員会 堂本委員長、宜名眞委員、高垣委員、
豊田委員、森田委員
事務局 中津総務課長 岡総務課長補佐、小田原主任、
石井主事
公立大学法人尾道市立大学 中谷理事長、川田理事、塩川理事、井上理事、
神田学務課長、土岸企画広報室長補佐、
堀江専門員、森下主任

報告事項：1 平成27年度第2回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について
2 公立大学法人尾道市立大学平成28年度年度計画について
3 大学機関別認証評価の結果について

議 題：1 公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について
2 中期目標（第2期）及び中期計画（第2期）の策定について
3 大学機関別認証評価の結果について

【報告事項】

1 公立大学法人尾道市立大学平成28年度年度計画について

公立大学法人尾道市立大学平成28年度年度計画について大学が報告を行った後に、次の意見が出された。

第2 重点取組項目

2 研究力の向上

（委員）5～6万円で論文の英文校正をしてくれる民間業者があるので、年に1回か2回、その費用を大学が負担すると、教員がもっと論文を提出しやすくなると思う。

また今までの論文を検索して読める電子ジャーナルの準備をしてみてもどうか。J-ストールというものが安価で便利なので活用をしてみてもどうか。

第4 教育研究等の質の向上

1 教育の質の向上に関する目標

（2）国際的に通用する人材の育成について

（委員）TOEICの受験費用を入学後1回は大学負担で受けられるようにすれば受験

率が上がるのではないか。また何点以上は単位に反映させていくという制度を取り入れれば、スコアアップの意欲につながると思う。

(7) 大学院教育について

(委員) 山口大学経済学部では、北九州の専門学校で公認会計士有資格者を講師に呼んで実践的な授業をしてもらい、在学中の資格取得に結びつけているので参考にしてみてもどうか。

第5 国際交流に関する目標

(2) 体制の整備について

(委員) 日本に来た海外留学生がまず勉強するのは、日本語である。専門の科目を受講するよりも、日本語の科目を受講する方が圧倒的に多いので、留学生を支援するためには、日本語科目を充実させると効果的だと思う。

(委員長) 「～を検討した。～を工夫した。」というような報告書は出さないようにして欲しい。例えば、こういう方向へ向い、何回やってきて、今の時点でこれくらいまで達成できているという具体的な計画の達成度が分かるような報告書ができるような進め方をして欲しい。そうすれば具体的な評価ができると思う。

【議 題】

1 大学機関別認証評価の結果について

大学機関別認証評価の結果について、大学からの説明の後に、次の議論があった。

(委員長) 認証評価の結果について、大学の特徴として特に評価されている点、もっと伸ばして欲しいと評価された点があれば教えてほしい。

(大学) 課外活動について高い評価を受けている。尾道に関連した冊子類を作って、それを発表する場として、保育所や学校、福祉施設等で活用しているところでは、公立大学の大本の考え方である地域貢献という観点から本来の設置目的を果たしていると思う。

改善を要する点

P.39 授業アンケートの公開について

(委員) 教員間でのお互いのアンケートの公開は、行っているか。

(大学) 紙ベースで行っている。学生向けもポータルで結果を学生が見られるようにしている。

(大学) アンケート結果をシラバスへ反映していけば、学生にも分かる。科目や受講人数によって結果にばらつきがあると思うが、お互いに知るといのは大事だと思う。あまり偏るのは良くないので、情報の共有は必要だと思う。

(委員) 教員の評価の形はいろいろあるが、平成28年度の自己点検評価の委員会の中で集約されるというシステムになっているということでしょうか。

(大学) たくさんの項目のなかで自己点検評価委員会に関わるものを具体的に検討して進めていく。教育研究推進のために指摘されている項目を入れて、それ以外にも必要なことをやっていくという形になる。

(委員) 数年来、教員の評価をどうするかという議論は評価委員会のやりとりのなかで随分出ていたと思うが、その延長線上になるのか、あるいは新たに作り直すということか。

(大学) 教員評価については年ごとの研究教育、その他地域貢献などの項目が出ているが、それは継続していく。またそれを活用していき、研究の推進とどのように結び付けていけるか、去年あたりから検討しているところである。

2 公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について、事務局からの説の後、全会一致で承認された。

3 中期目標(第2期)及び中期計画(第2期)の策定について
中期目標について事務局から説明の後に、次の意見が出された。

(委員長) 現在の中期目標、中期計画が残り2年であり、次の目標をどう設定するかというところである。

市の方で第2期の中期目標を作成されると思うが、それを受けて中期計画を大学としてどのように立てていくのか、お互いに意見を交換しながら、中期目標、中期計画を作成していく必要があると思う。

昨年度の業績の評価をするプロセスの中で、中期目標を立てて、それに基づいて中期計画を立てて方向性を示すことが必要である。昨年度の業績評価を審議し、その結果、議題にあがってくるものを中期目標、中期計画ととらえていければいいと思う。

4 平成27年事業年度業務実績評価について

平成27年事業年度業務実績評価について、事務局から説明をした後に、次の意見が出された。

(委員)自分が担当すべき項目について、大学の内情を把握してないので評価できるのかと思っている。

(委員長)内情を把握していない立場で評価して欲しいと思う。大学としてはこれで良いと思っても、外から見れば組織の運営としては違う見え方が出てくる場合もある。

(委員)他の大学は近隣大学との交流があるのに対し、尾道市立大学の学生は内にもっていて他大学との交流が少ない印象がある。いろんな人との交流を通しての刺激等がないと思う。そういった担当すべき項目以外の事を議論する場はあるのか。

(委員長)この評価委員会の場で議論していただき、大学の先生の意見を聞けばいいと思う。意見の中には大学だけの問題だけではなくて、尾道市の問題も多々あると思うので積極的に意見を出してもらえればと思う。議論することで、評価委員会が機能していくと思う。

個人的な意見として、長年評価委員会に携わっているが、同じような評価をしている気がする。尾道市立大学は、地域が設立した大学なのでもっと大胆な進め方でいいのではという気がする。特に優れた点、特に大学としてはこれを言いたいということをしてできるだけ引き上げていくような形の評価委員会にしていきたい。

5 その他

次回評価委員会は日程調整のうえ開催することとした。